

Annual Report

2023

熊本YMCA活動レポート
2023.4-2024.3



Vision

YMCAが実現したい世の中の姿

互いを認め合い、高め合う
「ポジティブネット」のある豊かな社会を創る。

YMCA will work towards building communities in which people will respect and enhance one another to bring out their best. Rich and inspiring communities connected by people's "Positive Net".

Positive Net

互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと。

Value

YMCAがステークホルダーに提供を約束する価値

したい何かがみつきり、誰かとつながる。
私がよくなる、かけがえのない場所。

The YMCA is a very special space where you can encounter something,
connect with someone and transform yourself.

みつかる
Encounter

つながる
Connect

よくなる
Transform

Mission

熊本YMCAの使命

熊本YMCAは、熊本バンドの精神をうけつぎ、イエス・キリストによって示された愛と奉仕のわざに励み、青少年の精神・知性・身体の調和のとれた全人的成長を願い、すべての人々がひとつとなるための働きを行います。

1. 共に生きる社会 2. 地球環境の保全 3. 生涯学習の推進 4. ウエルネス活動 5. ボランティア活動 6. 平和な世界

メッセージ

Message from The Kumamoto YMCA



会長 **吉本 貞一郎**

Teiichiro Yoshimoto
President



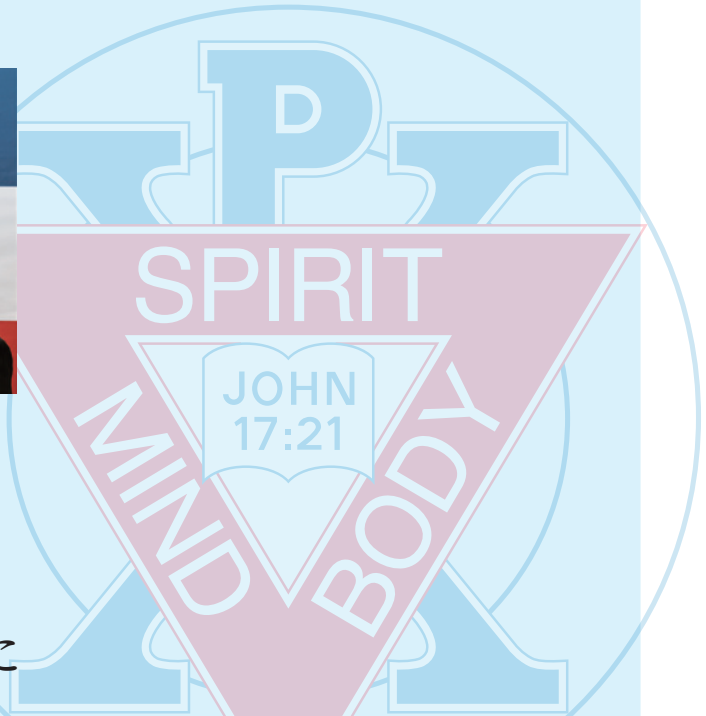
常議員会議長 **本田 節子**

Setsuko Honda
Chair Person of the Board of Directors



総主事 **光永 尚生**

Hisao Mitsunaga
General Secretary



YMCAの動きが社会をよりよく変容させる世の光となるために

熊本YMCAは、1876年の熊本バンドを源流とし1948年に設立されました。

1844年のロンドンで世界初のYMCAが設立された際は、イギリスは産業革命下で若者が生きづらい社会環境にありました。その中でキリスト教信仰により導かれた、ジョージウィリアムズら12人の仲間が共に祈り、よりよい社会を創りたいという願いをもってYMCA運動が始まりました。現在の熊本YMCAが職員と会員の皆様が共に社会課題に向き合い、会員運動を継続してきた所以です。その歴史と伝統は、“世界を見つめ、地域に生きる”人として、国内、世界のYMCAを通じた働きとつながっています。

現在の世界で戦争が頻発していることに胸が痛みます。ウクライナ、ロシア、パレスチナ／ガザ、イスラエルにもYMCAの活動があり、国内では熊本地震や新型コロナウイルス感染拡大、能登半島をはじめ各地での地震にあっても、「はなれていてもつながっている」様々な働きを生み出しました。

混沌とした時代でも熊本YMCAは会員運動と事業の中に「みつかる。つながる。よくなっていく。」という組織の方向性を発信し、熊本YMCAの使命にある「共に生きる社会」の実現はポジティブネットのある豊かな社会づくりとして、新たな価値へと進歩しています。

歴史的にYMCAは会員組織の運動体として、複数法人の

運営を職員が担い、会員の皆様と共に歩んでいます。崇高な目的（ノーブル・パーパス）を持つ組織として、人々を中心に据え、人間のもつ力を解き放つ組織へと変容していきます。そのことが社会を活性化させ、地域に根差し世界を見つめていくことだと確信しています。

私たちは歴史を学び、YMCA運動の世界観を感じ、だれひとり取り残さない社会の到来のために働きを進めてまいります。2023年度中にお支えをいただきました全ての方に心より感謝申し上げます。

YMCAについて About YMCA

YMCAとは

YMCAとは、Young Men's Christian Associationの略称で、キリスト教を基盤とする非営利公益団体です。世界120の国と地域で、およそ6500万人がYMCAの活動に関わり、日本国内では「みつかる。つながる。よくなっていく。」をスローガンに、地域や人々のニーズに合わせた多様なプログラムを提供しています。

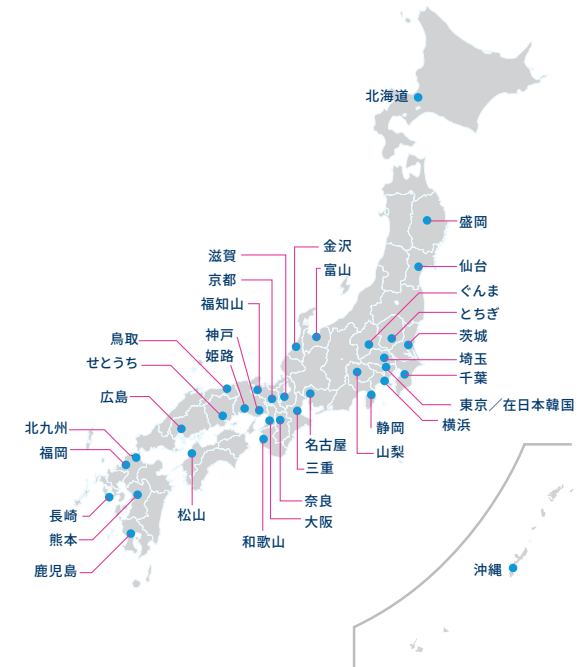
YMCAは1844年、産業革命下のイギリス・ロンドンで、同世代の仲間たちの人格的成長や生活改善を願うジョージ・

ウィリアムズ（1821～1905）ら12人の青年たちによって組織されました。

日本最初のYMCAは1880年（明治13年）、東京で創設。現在では沖縄から北海道まで、約14万人の会員とともに活動しています。

**日本のYMCAは、
全国35都市、200を超える拠点で
14万人が活動を行っています。**

About 140,000 Members,
35 YMCAs, more than 200 Facilities in Japan.



YMCAの活動領域



子どもの成長に寄り添う 子育てと子育て

1

保育やアフタースクール、ウェルネスや語学教育といった体験や出会いの場と機会を通して子どもたちの成長に寄り添っています。



若者の力を信じる ユースエンパワーメント

2

幅広い分野の学校や学習の場、ボランティア活動を通して、若者の人間力を育み、その成長を力強く支援しています。



健やかな生活を支える 生活クオリティの向上

3

健康寿命の延伸や知的好奇心の追求を共にし、社会とつながる機会を提供することで人々のいきいきとした健やかな生活を支えます。



社会貢献の地域基盤となる 社会に貢献

4

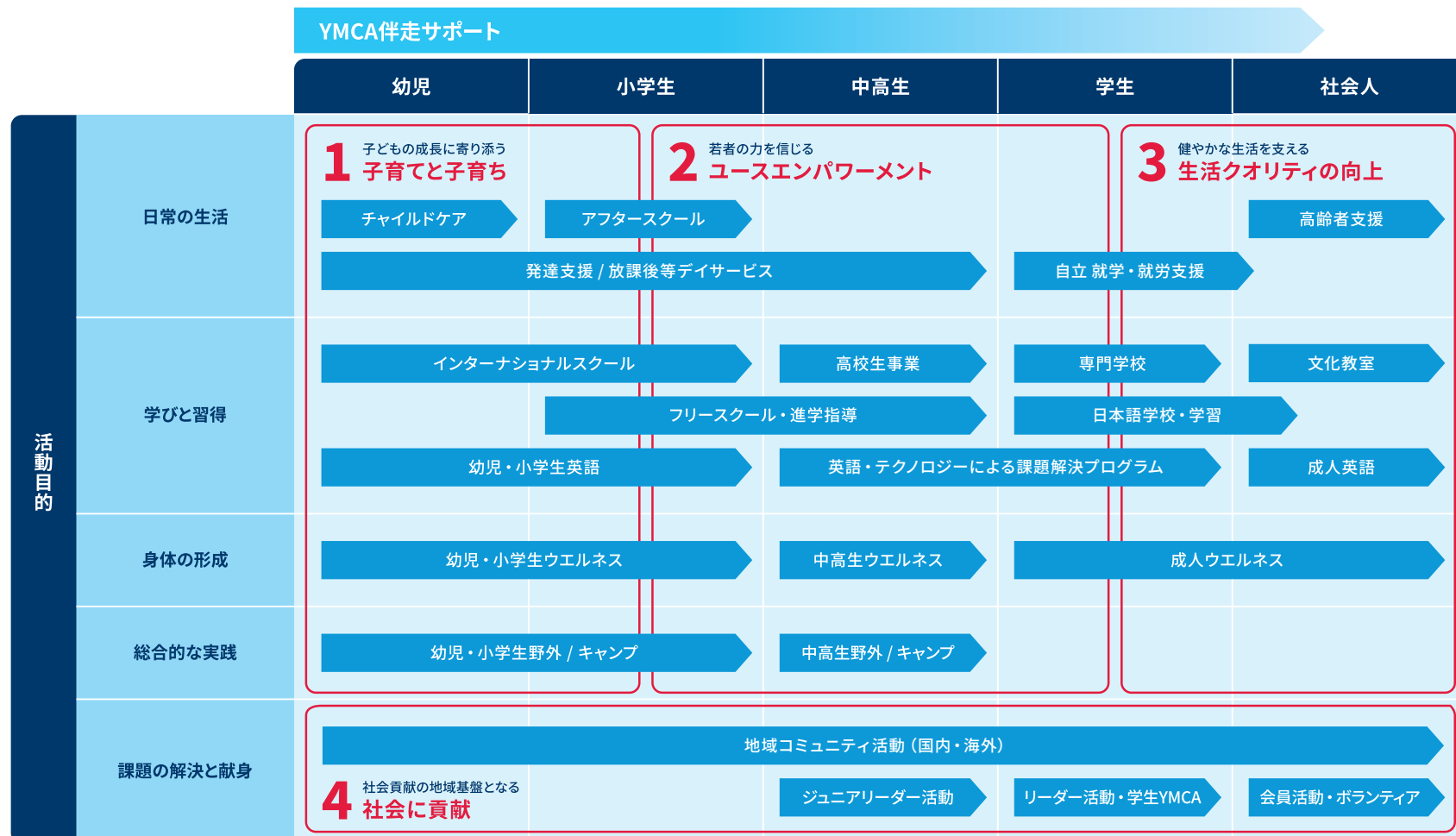
災害支援やいじめ防止アクション、チャリティー活動など、日本と世界に広がるネットワークを活かして社会貢献の輪を広げています。

YMCAの全人的成長プログラム YMCA's Holistic Education Programs in Japan

YMCAブランドの約束と実行をさらに結びつけるために

YMCAブランドの多岐にわたる活動を、4つの領域（赤枠1～4）と5つの目的（「日常生活」ほか）で整理し、私たちの全国での活動を一覧で「見える化」しました。

とりわけ、私たちの共通の強みである「個人に寄り添う力」を、子育て・子育て領域から発揮するための新たな取り組みとして「YMCA伴走サポート」を推進していきます。



熊本YMCA 会員運動3ヵ年計画・事業5ヵ年計画

Three-Year Plan 2024-2026 / Five-Year Plan 2024-2028

熊本YMCA × SDGs

熊本YMCAは、熊本YMCAの使命実現を通して、また、ポジティブネットのある豊かな社会の創造を目指したYMCAの様々な活動を通して、誰も取り残さない持続可能な開発目標の達成を目指しています。会員運動3ヵ年計画・事業5ヵ年計画に取り組み、これからも、熊本県SDGs登録事業者として、熊本YMCAの3法人が日々その啓発活動に取り組んでいきます。



熊本県SDGs登録事業者

公益財団法人熊本YMCA

©2010熊本県くまモン

第2期登録 2022年1月26日～2025年1月25日

学校法人熊本YMCA学園

第4期登録 2023年1月16日～2026年1月15日

社会福祉法人熊本YMCA福祉会

第4期登録 2023年1月16日～2026年1月15日

会員運動3ヵ年計画骨子 (2024～2026)

世界を見つめ、地域に生きるボランティア運動3ヵ年計画

- 会員と共にSDGs (持続可能な社会) の実現に向けてYMCA運動を推進する。
- ユースを信じ、ユースに委ねる力 (ユース・エンパワメント) を高める働きを行う。
- ワイズメンズクラブや他団体とパートナーシップの更なる推進となる進め方の仕組みづくりを行う。
- ボランティアリーダーシップの開発となるような活動を推進する。
- ICR (国際、地域、コミュニティ) の推進となるように、メンバーシップ委員会を再編する。
- ICT、AIの更なる活用を図り、会員運動推進のサポート機能を高めていく。
- キリスト教団体としての働きを強めるための教会との協働、連帯、学びの場を継続して創る。
- リソースモビライゼーションを活用した募金、寄附活動の活性化を図り会員増強につなげる。
- 維持会員1,000名目標を立案し、メンバーシップ委員会を中心とした会員運動の増強を図り運動を推進することで、YMCA運動全体の活性化と運動を広げていく。
- 年末募金1,500万円達成により、BAPY (参加費減免制度) や学生支援を今まで以上に推進する。

*全体共通項目から、各施設運営委員会で各施設の中期計画を策定していく。

事業5ヵ年計画骨子 (2024～2028)

社会教育関係団体事業推進5ヵ年計画

- 「YMCAの事業＝社会教育である」として定義した事業へ (YMCAの全人教育とは何かを問う)
- 全事業のパブリシティ発信強化による社会的な認知度向上を、今まで以上に推進する。
- Y-Link (会員システム) を通したYMCA独自のコミュニケーションツールの開発 (CD運動の更なる推進)
- 熊本YMCA独自のブランディング創造と今までにないブランド創出へのChallengeを行う。
- 全事業収支改善のためのアメンバー経営への脱皮 (新しいメンバーシップ継続法開発)
- 会員継続 (メンバーシップ・リテンション) の新しい仕組みづくりを模索し価値を創造する。
- ガバナンスの強化とスタッフの管理運営能力向上のための定期的な内部・外部研修を実施する。
- コンプライアンス向上のため専門家との協働と法令順守のための学びを継続する。
- PIF (ポジティブ・インパクト・ファイナンス) のKPI指標の確立を推進する。
- 人事、労務、総務機能の効率化と更なるICT推進の運動により「社会に選ばれる組織」を目指す。
- 施設のリ・デザイン計画を策定し、新設、改修、統合、撤退などの意思決定につなげていく。

*全体項目から、会員と運動と運動する内容があれば、運営委員会等で推進する。

2024年度 熊本YMCA事業方針・計画

Policy for 2024



あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。

マタイによる福音書5章16節より

Let your light shine before others. from Matthew 5:16

1

公益財団法人事業の健全化・適正規模化を鑑みて、
全施設の中期計画策定元年とする。

2

学校法人事業の事業再編を促し、日本語学校から
専門学校への進学者数増を視野に入れる。

3

社会福祉法人運営の安定化を図ると同時に、
熊本市内での事業化を図る。

4

有限会社の更なる活用のために施設を転居し、東部グローバル
コミュニティプラザを活用した運営を進める。

5

複数法人運営の安定化のために、法人の強みを組み合わせたYMCA
独自の地域に根差した複合事業を推進する（コングロマリット）。

世界YMCA VISION 2030

熊本YMCAは方針計画の中で常に意識します。



VISION
2030



Community Well-being 若者、地域へ向けた良好な方策づくりのために



Meaningful Work やりがいのある仕事と雇用環境の創造のために



Sustainable Planet 持続可能な地球のために



Just World 公正な世界の実現のために

熊本YMCA版 VISION 2030

未来の担い手づくりに取り組みます。

スモール&グローバル（グローバル+ローカル）コミュニティの形成と会員の参画

こども、コミュニティ、ボランティアを運動と事業の中心に据える

環境経営、健康経営、ミッション経営を職員組織の中で推進する

やりがい、いきがい、をキーワードとする運動の展開を会員運動として推進する

これからも地域と共に 熊本YMCA創立75周年

熊本YMCAは、2023年に創立75周年を迎えました。その起源は、熊本洋学校で教師ジェーンズの薫陶を受けた青年たちによる1876年の熊本バンドの結盟にまでさかのぼり、現在の熊本YMCAの働きは長い歴史の上にあります。

1948年に創立総会を迎え、翌年には熊本YMCA簿記学校（のちの熊本YMCA学院）を設立。現在は、公益財団法人熊本YMCA、学校法人熊本YMCA学園、社会福祉法人熊本YMCA福祉会の3法人を軸に、社会教育を中心とした活動を行っています。



熊本バンドの仲間たち



熊本YMCA創立総会（1948年）

記念式典を開催

75th Anniversary Celebration

熊本YMCA創立75周年にあたり、10月9日（月・祝）に記念式典を開催しました。九州学院のブラウン・メモリアル・チャペルで行った第1部記念礼拝では日本福音ルーテル神水教会牧師の角本浩さんによる奨励、熊本YMCA会長の吉本貞一郎さんによる挨拶がなされ、第2部の式典では、熊本YMCA総主事の光永尚生さんが式辞を述べた後、熊本市副

市長の深水政彦さん、日本YMCA同盟総主事の田口努さんから祝辞として、これからの熊本YMCAの活動への期待が語られました。

第3部講演会ではほめ育グループ代表である原邦雄さんが「私たちは、ほめ合う為に存在する」と題して講演。第4部の祝賀・感謝会はホテルメルパルク熊本で開催しました。式典には韓国大邱YMCAからのゲスト4名も出席。大邱YMCAの理事長であるイ チュンギさんは「コロナ禍で中止されていた青少年のスポーツ交流や職員研修が再開されました。両

YMCAの交流がさらに深まることを願っています」とメッセージを送りました。熊本YMCA学院日本語科の留学生によるダンスやキャンプソング合唱も行われ、最後に熊本YMCAの歌を合唱して和やかな雰囲気の中、閉会しました。

また、10月27日（金）には熊本YMCA学院建築科が、熊本YMCA創立75周年記念を記念してホテルキャッスルで大同窓会を開催しました。57年の歴史を誇る同学科。同窓会は卒業生による実行委員会が準備し、講師・職員を含めた152名が参加しました。

熊本創立75周年記念式典



第一部記念礼拝



第二部記念式典 日本YMCA同盟総主事の田口努さん



第四部祝賀・感謝会
大邱YMCA理事長イチュンギさんと共に

熊本YMCA学院建築科大同窓会



活動報告 Activity Report | Community Services

地域活動・ボランティア活動



いしかわ総合スポーツセンター



神戸、仙台のYMCAからの派遣者と共に

熊本YMCA定時会員大会

A General Meeting

5月26日（金）、2023年度熊本YMCA定時会員大会を開催しました。本会場の熊本YMCA本館とサテライト会場のYMCA阿蘇キャンプをオンラインでつなぎ、125名が参加しました。第2部講演会では熊本県副知事（当時）の木村敬さんが講演。熊本県の抱える課題や今後の可能性について語り、「熊本の真の国際化にYMCAの力が必要です」「行政でも企業でもない、共助と公助の中間団体としてのYMCAの存在に期待したい」とメッセージが送られました。第3部表彰では、永年在籍表彰者を代表して会員在籍60年の大原英子さんが挨拶し、会場から大きな拍手が送られました。



木村敬副知事（当時）



能登半島地震災害支援活動

Noto Peninsula Earthquake Disaster Support Activities

2024年1月1日に発生した能登半島地震。全国のYMCAは、内閣府およびJVOAD（全国災害ボランティア支援団体ネットワーク）からの要請を受け、金沢市の「いしかわ総合スポーツセンター」に開設された「1.5次避難所」にスタッフを派遣しました。「1.5次避難所」とは、高齢者や障がいのある方、妊婦、乳児など特に配慮が必要な方々を、ホテルなどの「2次避難所」に移ることができるまで受け入れるものです。

YMCAはこれまでの災害支援の経験をもとに、3月末まで避難所運営のアドバイスを行い、熊本YMCAからも4名が現地向かいました。また、輪島市の避難所では、富山YMCAを中心に全国YMCAの協力により、支援活動を継続しています。

熊本YMCAの職員派遣

〈いしかわ総合スポーツセンター〉

- ▼中村 賢次郎さん（熊本YMCA学院校長）
1月19日（金）～21日（日）
- ▼大久保 和生さん（益城町総合運動公園所長）
1月19日（金）～26日（金）
- ▼皆見 治男さん（YMCA赤水保育園）
1月25日（木）～31日（水）
- ▼牛嶋 加佐喜さん（熊本YMCA総主事室）
2月2日（金）～7日（水）
3月10日（日）～17日（日）

活動報告 Activity Report | Community Services

地域活動・ボランティア活動

YMCAインターナショナル・チャリティーラン YMCA International Charity Run

YMCAインターナショナル・チャリティーランは、障がいのある子どもたちもそうでない子どもたちも共に幸せに生きていける社会をめざして全国で開催されています。

第8回熊本YMCA大会はリアル×リモートのハイブリッド開催。11月26日(日)から12月3日(日)まで、参加者の皆さんが走った距離をオンラインで申告しました。大会初日には益城町総合運動公園でオープニングランを開催し、444名が参加。運営ボランティアなどを含む約500名が来場しました。



ピンクシャツデー

Pink Shirt Day

「ピンクシャツデー」は、2007年、カナダの学生から始まったいじめ反対運動です。今では70カ国以上でいじめに反対する活動が行われています。2月の最終水曜日をいじめについて考え、いじめられている人と連帯する思いを表す1日としています。熊本YMCAのぶどうの木幼稚園ではピンクシャツデーを前に、近隣でピンクシャツデーパレードを実施。そのほかのプログラムでも会員や職員らがピンクを身につけ、いじめ防止を訴えました。

企業の社会貢献

Philanthropy

異なる企業の社員が集い、共に社会貢献を行うYMCAフィランソロピー協会は現在、26の県内企業が所属し、新入社員らを対象としたボランティア入門講座や児童養護施設の子どものためのお仕事紹介プログラム、社会課題をテーマとしたセミナーなどを実施しています。

2023年度は4年ぶりとなるチャリティボウリング大会を開催しました。今回は子ども食堂の子どもたちの支援が目的。6月2日(金)、namcoワンダーシティ南熊本店ワンダーボウルを会場に、8企業・団体から14チーム、56名が参加しました。約6万円の大会益金をもとに、お菓子やお米、レトルト食品等をそろえ、7月6日(木)に子ども食堂「だんだん食堂」で贈呈式を実施。ボウリング大会で優勝した会員企業のリコージャパン株式会社熊本支社がプレゼンターを務めました。寄贈品は「一般社団法人熊本県こども食堂ネットワーク」を通して、子どもたちのために役立てられました。



活動報告 Activity Report | Global Exchange and Cooperation

国際交流・国際協力



ミャンマーモガウン支援 報告&交流会

Report & Exchange Meeting for Support in Magaung, Myanmar

みなみセンターは、ミャンマーモガウンYMCAと共にエイズ孤児を支援。2015年に孤児院が完成し、今もサポートを継続しています。7月8日(土)、現地モガウンYMCA総主事のノジャさん、支援者の皆さん、企業、YMCA運営委員、ワイズメンズクラブの皆さんとオンラインで報告交流会を実施しました。2023年7月現在、孤児院には9名の子どもたちが生活。自立した寮の運営を目指しつつも、内戦や物価高騰などの課題が多く、コロナ禍以前に行っていた魚の養殖や養鶏などの事業再開が難しい状況であることが報告され、引き続き支援を必要としていることが確認されました。

海外ボランティアツーリズム受入れ

Reception of International Volunteer Tourism

熊本YMCAでは海外の学生らによる熊本地震ボランティアツーリズムを受け入れています。7月7日(金)～12日(水)の日程で香港理工大学の学生23名、大学職員2名、プログラムをサポートする香港中華YMCAスタッフ2名が来日。また、1月29日(月)～2月2日(金)には、台湾・彰化YMCAの協力のもと、台湾各地の学生12名、彰化YMCAスタッフ1名が来熊しました。被災した農家の農作業でのボランティア活動のほか、YMCAが運営する保育園の子どもたちや熊本YMCA学院の学生、県内の大学生との交流も行いました。



台湾・彰化YMCAボランティアツーリズム



高校生世代の国際交流事業

International Exchange Projects for High School Students

8月6日(日)、北カリフォルニア日本文化コミュニティセンター(JCCNC)による国際交流プログラムで来日したサンフランシスコの高校生5名、引率者1名を受け入れ、熊本県立熊本西高等学校の高校生との交流を企画・運営しました。双方の希望により、熊本城と城彩苑を訪問。わくわく座では英語字幕付きの熊本城VRなどを楽しみました。最後は熊本西高校の全員が「サンフランシスコに行きたい」と話し、サンフランシスコの学生と再会を約束しました。

広島YMCA国際青少年平和セミナー

Hiroshima YMCA International Youth Peace Seminar

8月4日(金)～6日(日)、広島YMCAを拠点に開催された第43回国際青少年平和セミナーに熊本YMCAからYMCA学院の学生1名と職員1名が参加しました。国内からは北海道、和歌山、東京、広島、国外からはインド、台湾、韓国のユース約20名が集まりました。被爆者証言や平和記念資料館、慰霊碑巡りを通して学んだことをもとにディスカッションし、「平和な世界を実現するために私たちができることは何か」を考え、形にしていく3日間でした。ユースたちはグループに分かれて、平和への想い、次の世代に伝えたいことを絵本や紙芝居、歌に表現しました。

広島YMCA国際青少年平和セミナー

活動報告 Activity Report | Global Exchange and Cooperation

国際交流・国際協力

韓国大邱YMCAとの交流

Exchange with the Daegu YMCA in Korea

熊本YMCAは1969年から韓国大邱^{テグ}YMCAとの交流を続けています。8月7日（月）～10日（木）の4日間の日程で、「第36回日韓青少年交流」を実施。視覚に障がいがある青少年にスポーツや文化を通して、限りない可能性の再発見と国際交流の場を提供することが目的で熊本県立盲学校、ユース、熊本ワイズメンズクラブ、YMCA職員あわせて10名が韓国大邱市を訪れました。特別支援を幅広く行う光明学校を訪問して歩行訓練施設や運動施設、マッサージ演習施設などを見学

し、その後はアロマ香水作りや軽スポーツ体験をしました。さらに大邱YMCA青少年会館ではK-POPのレッスンを受け、流行の歌のフレーズをみんなで楽しみました。

11月17日（金）～19日（日）には、第28回熊本YMCA・大邱YMCAの役員協議会を実施。「ユースのグローバルリーダーシップ育成～ユースの人材育成をいかにして行っていくか～」をテーマに討議を行い、引き続き、新たなプログラムを協働して実施していくことが確認されました。その他、職員の短期交換研修も行っています。



第36回日韓青少年交流 軽スポーツ体験

日中韓YMCA平和フォーラム

Japan-China-Korea YMCA Peace Forum

20年の歴史を重ねる日中韓YMCA平和フォーラムが2024年2月1日（木）～4日（日）の日程で中国上海で開催され、中国からの留学生で熊本YMCA学院ホテル観光科の学生1名が参加しました。各国代表からの平和の取組みについての発題に始まり、復旦大学教授の胡令遠^{コレイエン}さんから「平和の船を共に漕ぐ」をテーマに基調講演がなされました。

その後、魯迅記念館や内山書店、大韓民国臨時政府跡、上海YMCAなどを訪問し、戦時中から現在までの上海の歴史を学びました。ユースグループは平和を実現するためのユースアクションの作成を行い、各グループ趣向を凝らしたアクションプランを宣言しました。



平和を実現するためのアクションプラン発表

海外の子どもたちの支援

Support for Children Overseas

1994年に設立し、日本の里親と共にタイの山岳少数民族の子どもたちの支援を続けてきた若竹寮が2023年度末をもって閉鎖しました。若竹寮は子どもたちが街の学校に通うための生活の場となっていたましたが、山岳民族の居住地に小学校と中学校ができたことにより、必要性に変化が生まれました。熊本YMCAでは今後、タイ・チェンマイYMCAなどと意見交換を行い、形を変えた子どもたちの支援活動の継続を検討します。

事業報告

Business Report | Public Interest Incorporated Foundation

公益財団法人



ウェルネス事業

Wellness - Health Education

ウォーターセーフティーキャンペーン

こどもスポーツスクールでは、水泳、体操、サッカー、ヒップホップ、チアダンスの教室を年間を通して実施しています。水泳教室では「全国YMCAウォーターセーフティーキャンペーン」の一環で水難事故を未然に防ぐための「着衣泳体験」を行っています。また、小学校・幼稚園等ヘリダーを派遣し、21校・園、2015名を対象にウォーターセーフティー（水上安全）講習会を実施。水泳授業が始まる6月にあわせ、水泳が苦手な児童を対象に『みんな泳げる25m運動』と称した講習会も実施しています。

スポーツフェスティバル

子どもたちが日頃の練習の成果を発表する場所として、10月22日（日）にスイミングフェスティバル、11月19日（日）にサッカーフェスティバルと体操フェスティバル、2024年2月25日（日）にダンスフェスティバルを開催しました。



成人ウェルネス

成人ウェルネスでは、トレーニングジムやプール、スタジオプログラムを運営。みなみセンターでは介護予防や地域コミュニティづくりを目的に熊本市高齢者支援センターささえりあ幸田と連携して「健康アップたいそう」を月に2回開催しています。参加者は毎回、楽しく笑いながら、脳トレや筋トレに励んでいます。

野外事業・野外活動

Outdoor Education

野外活動クラブは、自然や仲間、新しい自分との出会いと気づきの中で、子どもたちが持つ、自ら育つ力を育てていくことを目的に活動しています。子どもたちは対象年齢の違いだけでなく、テーマごとに、ADVENTURE（冒険心）、FUN（楽しむ）、ACTIVE（自発的に）のクラスに分かれ、年間を通して様々な体験をしています。また、春、夏、冬の季節にあわせた単発のキャンプも実施。2024年3月には北海道の大自然の中でスキーを楽しみました。



事業報告

Business Report | Public Interest Incorporated Foundation

公益財団法人

インターナショナル事業

International Education

インターナショナル事業部では、子どもたちや大人を対象とした英会話、語学教育を行っています。5月19日（金）、YMCA英会話と世界のことばのスペシャルプログラムとして、YMCA本館で岩本光弘さんの講演を英語で行いました。岩本さんは全盲のヨットマンとしてヨットでの太平洋横断に挑戦。クジラとの衝突で一度は失敗しながらも再度挑戦して成功しました。岩本さんは熊本YMCAで英語を学んだ元受講生であり、現在はアメリカを拠点に活動。徐々に目が見えなくなった頃の心境や、失敗の後に味わった、多くの非難、中傷と、それを乗り越えて再び立ち向かった心と新たな出会いなどについて語られました。



熊本YMCA英会話元受講生の岩本光弘さん



幼稚園・保育事業

Childcare

「共に育ち合う」「神と人に愛される子どもに育つ」ことを目指す、みなみセンターのぶどうの木幼稚園では、7月14日（金）から15日（土）にかけてバンピクラス（年長児）が1泊キャンプに挑戦しました。YMCA阿蘇キャンプを拠点に、大自然の中で走り回ったり、川遊びをしたり、クラフトを作ったり、キャンプファイヤーをしたりと盛りだくさんの2日間でした。

指定管理事業

Designated Management

公益財団法人熊本YMCAは指定管理者としてリフレスおおむた、御船町スポーツセンター、益城町総合運動公園の運営を担っています。

御船町スポーツセンターは2014年10月から熊本YMCAと有限会社ゆうしん、有限会社スクラムの3団体による共同企業体が、益城町体育施設は2015年4月から熊本YMCAが運営。2024年3月に指定管理者としての期限を迎えた両施設について、2024年度以降も運営を担うことが決定しました。益城町体育施設は熊本YMCAと株式会社キューネットによる益城町体育施設共同企業体による運営となります。



事業報告 Business Report | Incorporated Educational Institution

学校法人

専門学校

Vocational School

熊本YMCA学院本科では、「専門教育」、「キャリア教育」、「人間教育」の3つの教育方針のもと、こども保育科、ホテル観光科、医療秘書科、健康スポーツ科、建築科の5学科で学生たちが学んでいます。

「ほめ育」を導入

2023年度から、人間教育の一環として「ほめ育」を導入しました。ほめ育は、脳科学・心理学をミックスした教育メソッドで、世界20カ国に広がり、教育界や企業などの研修に導入されています。専門学校では、熊本YMCA学院が初めての取り組みです。



ほめ育の開発者である原邦雄さんは熊本創立75周年記念式典で講演を行った

4月21日（金）の第1回目の授業では、ほめ育の開発者である原邦雄さんとオンラインでつなぎ、会場にはほめ育シニアコンサルタントの中園暁子さんを迎えました。「自分のことが好きシート」では、学生たちが自分の好きなところを書き込み、それをもとに学生同士が話をし、互いのいいところを褒め合いました。はじめは人に褒められて何だかこぼれんばかりでしたが、次第に笑顔と喜ぶ声が広がっていききました。

日本医師会認定養成校としてスタート

熊本YMCA学院医療秘書科は日本医師会認定の医療秘書養成校となり、2023年度から日本医師会が定めたカリキュラムの実施が始まりました。医療現場のニーズに沿った医療秘書として重要な役割を担う人材を育みます。

熊本県立岱志高等学校と協定

学校法人熊本YMCA学園と熊本県立岱志高等学校（荒尾市）が、地域社会の発展と地域における人材の育成に寄与することを目的に連携協定を締結しました。YMCAの社会教育事業や健康体操教室、スポーツ教室運営等の専門性をういて岱志高校の「生涯スポーツ・する見る支えるスポーツ教育カリキュラム」を推進すること、熊本YMCA学院の5学科から専門職に関する情報提供を行い、高校生の進路選択のプロセスに貢献すること、その他、災害復興支援やSDGsなどに関する協力を具体的な内容として掲げています。



日本語学校

Japanese Language School

コロナ禍の落ち着きに
より賑わいを取り戻した
日本語学校は2023年10月時点で、136名の留学生が所属しました。9月13日（水）、熊本市国際交流会館を会場に、日本語スピーチ大会を開催。予選を突破したネパール、ベトナム、中国、フィリピンからの留学生9名がそれぞれの経験や思いを語りました。



また、2024年3月1日（金）にはこれまでの日本語学習の成果を披露する「学習成果発表会」を熊本YMCA本館で開催しました。入学後約6か月の初級Ⅰクラスの3名は「わたしのこと」というテーマで、入学後約1年の初級Ⅱクラスは「将来の夢」、入学後約1年半の中級クラスは自由テーマで発表しました。入学後約2年の上級クラスは授業の中で取り組んだ「グループ研究」を基に3つのグループに分かれてプレゼンテーションを披露。それぞれ「留学生の時間管理大作戦」、「日本と外国の違い」、「YMCAでの2年間」をテーマに、自分たちの経験に基づき、充実した留学生活を送るうえで留意すべきことを写真や動画、統計資料、イラストなどにまとめて発表し、後輩たちにアドバイスを送りました。

事業報告 Business Report | Incorporated Educational Institution

学校法人

幼稚園

Kindergarten

水前寺幼稚園

2024年1月18日、水前寺幼稚園が属している出水南小学校校区で食の大切さ、食生活を通しての健康づくりを地域の方々に伝える役割を担っている「食生活改善推進員」と保護者ボランティアの協力により「豚汁」の炊出しがふるまわれました。子どもたちは普段は食べられないネギが食べられたり、いつもよりお替りが進んだりと大好評でした。昼食後、食生活改善推進員によるエプロンシアターで食事が栄養になる仕組みや栄養の種類などが楽しく説明され、子どもたちから「もう一度見たい」という声も聞かれました。



熊本五福幼稚園

毎年、様々な野菜の栽培を通して食育に取り組む熊本五福幼稚園。2023年度は初めて巨大カボチャ（アトランティックジャイアント）に挑戦しました。これまで見たことがないほどツルも葉も大きくて、どのくらい大きくなるのだろうとワクワクしていた子どもたち。収穫後は、ハロウィンに向けてジャックオーランタンを作り、子どもたちは頭にかぶってみるなど大喜びでした。



通信制

Correspondence Courses

仕事と学習を両立しながら福祉専門職の資格取得を目指す社会人のための通信制の社会福祉学科と精神保健福祉学科。2023年度修了生の国家試験の合格率は、社会福祉士が80.6%（全国合格率58.1%）、精神保健福祉士が学科が87.5%（同70.4%）と全国平均を上回りました。

発達障がい児支援事業

Support Projects for Children with Developmental Disabilities

2017年に放課後等デイサービス「YMCA自由なイルカたち」を開所した学校法人熊本YMCA学園が、2023年4月1日付で熊本市からことばの教室の建物を引き継ぎ、児童発達支援事業所「YMCAりとするてっぷ」を開設しました。5月30日（火）には開所式を開催。礼拝では、日本福音ルーテル大江教会牧師の森田哲史さんが奨励し、「『りとするてっぷ』という名称には、子どもたちが小さい一歩を歩むのと同時に、周りの家族や地域、私たちもあわせて変化することもあるのではないのでしょうか」とメッセージを送りました。



事業報告 Business Report | Social Welfare Service Corporation, Limited Company

社会福祉法人

保育園

Nursery School

YMCAの尾ヶ石・赤水・永草・黒川の4保育園の年中・年長クラスでは、毎週、楽しく英語を学んでいます。2024年2月17日（土）、昨年に続き、2度目のえいご発表会を行いました。阿蘇の司ビラパークホテルを会場に、たくさんの保護者の皆さんに見守られながら元気よく発表しました。

尾ヶ石保育園は、コロナ禍でできていなかった親子クッキングを2024年2月22日に実施。食について、親子で考える時間をもちました。阿蘇市食生活改善推進員の協力のもと、献立の内容、レシピの説明を受け、クッキング開始。タコライス、ほうれんそうと根菜のコンソメスープ、果物のヨーグルト和えを作りました。料理中は親子の会話も弾んで、楽しい時間となりました。

赤水保育園では7月14日（金）～15日（土）にお泊り保育を行いました。電車に乗って阿蘇青少年交流の家に出かけて行き、忍者修行をしました。壁のぼりの術、ターザンロープの術、蜘蛛の巣くぐりの術等々たくさんの修業をした後、クラフト、スイカ割り、カレー作りに温泉、キャンドルサービス、花火と楽しいことが目白押しで子どもたちも大興奮の様子でした。

上) 保育園合同えいご発表会

中) 親子クッキング

下) 電車の前で切符を持つ園児たち



有限会社



ユース・コーポレーション

Youth Corporation

ユース・コーポレーションでは損害保険業を終え、旅行業、物品販売を取扱業務とし、主に熊本YMCAで行うキャンプの企画・実施、会員対象のユニフォーム販売などを行いました。

2024年3月31日（日）～4月3日（水）には「富士山の雄大な自然と神秘的溶岩洞窟を訪ねる4日間の旅」を実施し9名が参加。静岡県御殿場市のYMCA東山荘を拠点に富士山の洞窟内部探索や富士山1300m付近の自然散策を行いました。1万年前に流れた富士山の溶岩流を遡行し、標高1800mの富士山側火山に登頂しました。

募金活動 Fundraising

希望のある豊かな社会づくりを目指して

2023年11月から取り組んだ年末募金、2024年1月から取り組んだ能登半島地震災害支援募金にあわせて13,350,426円もの募金が寄せられました。ご協力ありがとうございました。

YMCA年末募金

Fund Development Campaign

熊本YMCAは「子ども・若者・国際協力」をテーマに、毎年、年末募金に取り組んでいます。各拠点で募金を呼び掛けたほか、街頭募金、チャリティプログラムなどを行い、2023年11月1日から2024年3月31日まで取り組んだ2023年度は9,914,702円の募金が寄せられました。



みなみセンターチャリティフェスタ

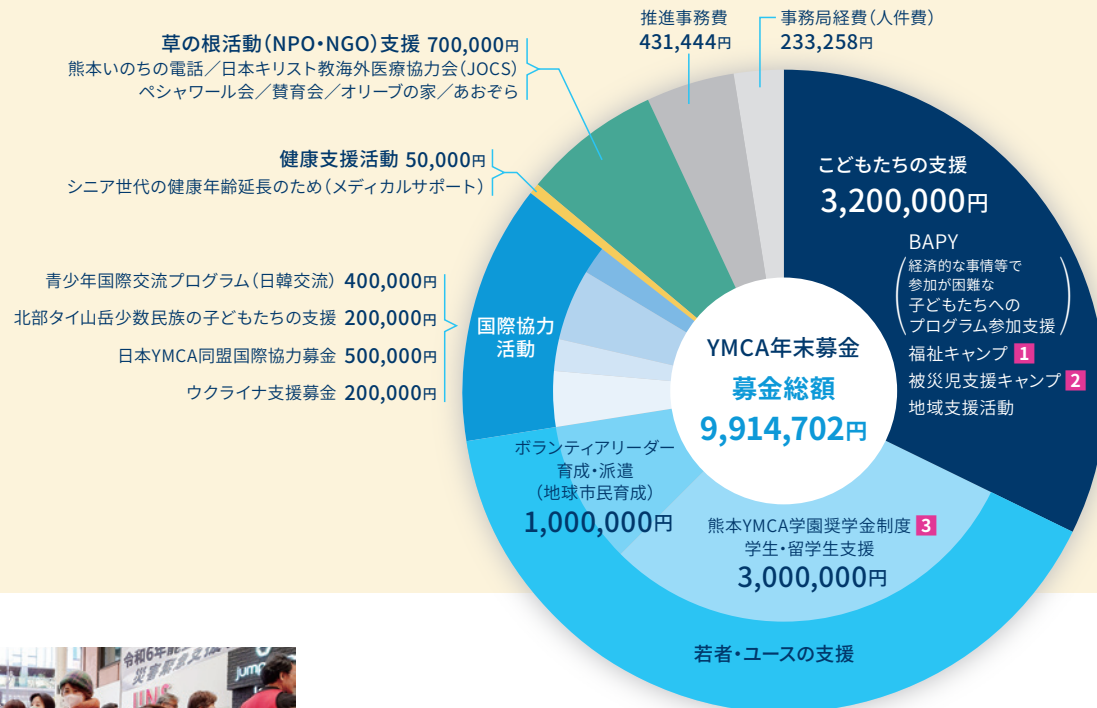
能登半島地震災害支援募金

2024年1月1日に発生した能登半島地震をうけ、全国のYMCAが募金活動に取り組みました。熊本YMCAでは1月8日(月・祝)、3月10日(日)に熊本市市街地で、その他、熊本市内や阿蘇市でも街頭募金活動を行いました。企業、個人からの募金なども合わせて2024年3月時点で3,435,724円の募金が寄せられました。

熊本市立井芹中学校の生徒会が中心となって集めた募金がYMCAに贈呈された



1月8日に実施した街頭募金活動では890,418円もの募金が寄せられた



YMCA阿蘇キャンプ70周年記念募金

2022年8月から2023年10月末まで取り組んだ募金は総額5,769,643円が寄せられました。主に阿蘇キャンプ100年に向けた施設の改修と熊本地震の際に傷んでいたキャビンの全面改修、異常気象などにも耐えうる施設、環境の創出のためのエアコン整備などに用いられました。

助成実績 Grant-in-aid Amount

参加費減免(通年プログラム)

事業部門	件数	助成額(円)
ウエルネス	23	803,560
野外教育	4	160,180
インターナショナル	4	145,080
アフタースクール・カルチャークラス	3	64,200
熊本YMCA学院(特別奨学金・留学生進学支援)	10	1,857,500
合 計	44	3,030,520

参加費減免(春・夏・冬休み期間中プログラム)

事業部門	件数	助成額(円)
野外教育	3	24,000
合 計	3	24,000

地球市民育成(ランゲージスクール学生受講料免除)

事業部門	件数	助成額(円)
インターナショナル	7	306,180
熊本YMCA学院 学生語学奨学生	8	389,880
合 計	15	696,060

地球市民育成 助成

プログラム	助成額(円)
第54回全国YMCAリーダー研修会派遣	119,664
第42回広島YMCA国際青少年平和セミナー派遣	51,000
カリフォルニアと熊本の高校生交流 実施費用	76,650
アジア太平洋地域ユースコンボケーション派遣 (熊本YMCA学院)	40,000
第9回日中韓YMCA平和セミナー派遣(熊本YMCA学院)	81,216
合 計	368,530

1 福祉キャンプ



熊本ワイズメンズクラブと熊本YMCAの共催で熊本県立盲学校の児童を対象とした第47回ポニーキャンプを開催した

2 被災児支援キャンプ



「あそぼうキャンプ」を開催。熊本豪雨災害で大きな被害を受けた球磨村の小学生を中心に23名が交流と絆を深めた

3 熊本YMCA学園奨学金制度



Voice

参加費減免制度
利用者の声

YMCA学院 こども保育科3年
佐々木 愛さん (2024年3月当時)

通っていた保育園の先生にあこがれて、子どもの頃から保育の仕事に興味を持っていました。中学生の時に生まれた甥に発達障がいがあると知って、この子のために自分ができることを考えるうちに保育について学びたいという気持ちが強くなりました。

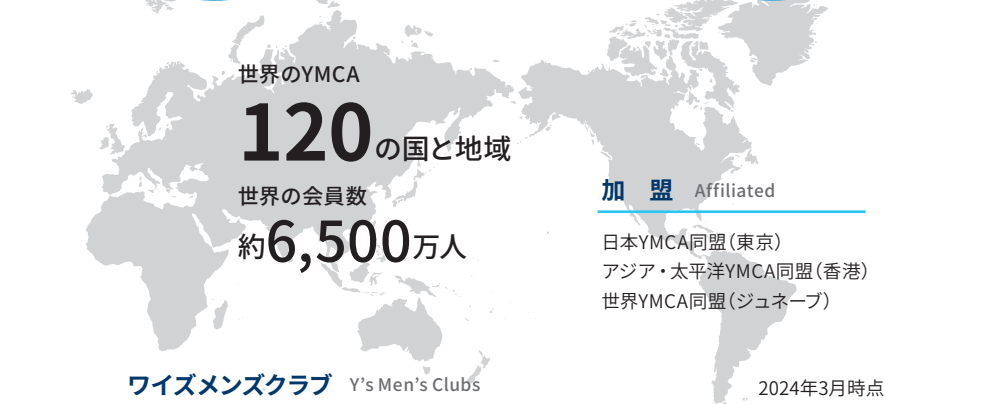
YMCA学院のオープンキャンパスで奨学金制度があると知りました。ひとり親家庭で育ったので母のためにもこの制度を利用したいと思いました。

私は勉強が苦手ですが奨学金が募金によって賄われていることを知り、これまで以上に勉強をがんばりました。オープンキャンパスでのボランティアや能登半島地震支援の街頭募金活動など、自分が力になれることがあれば参加しています。YMCA学院で必死にがんばったことは自分の力になったと思います。

卒業後は乳児院に就職します。より一人ひとりと向き合って保育したいと思い、選びました。子どもたちが自立できるような支援をしていくためにも、しっかり寄り添って、明るく笑顔で保育を頑張っていきたいです。

概況・統計

Statistics and Association Overview



ワイズメンズクラブ Y's Men's Clubs

熊本ワイズメンズクラブ	20名	阿蘇ワイズメンズクラブ	15名
熊本ジェーンズワイズメンズクラブ	31名	熊本にしワイズメンズクラブ	12名
八代ワイズメンズクラブ	7名	熊本Nスピリットワイズメンズクラブ	15名
熊本むさしワイズメンズクラブ	16名	熊本水前寺ワイズメンズクラブ	10名
熊本みなみワイズメンズクラブ	22名	熊本五福ワイズメンズクラブ	11名
熊本ひがしワイズメンズクラブ	13名		

ワイズメンズクラブ国際協会：YMCAの支援や協働を行う世界規模の奉仕団体で、日本でも全国140クラブがあります。インターナショナル・チャリティーランをはじめ、災害支援、募金活動でYMCAと地域を支えています。



公益財団法人

部門\拠点		本館	みなみ	ながみねファミリー	むさし	合計
ウエルネス	ウエルネス こども	15	1,098	1,224	567	2,904
	ウエルネス 成人	—	462	133	—	595
	野外	80	—	—	—	80
インターナショナル	こどもえいご	84	217	132	126	559
	成人語学	113	12	—	12	137
発達障がい支援		—	15	17	—	32
アフタースクール・カルチャークラス		—	6	35	—	41
チャイルドケア		—	60	—	—	60
合計		292	1,870	1,541	705	4,408

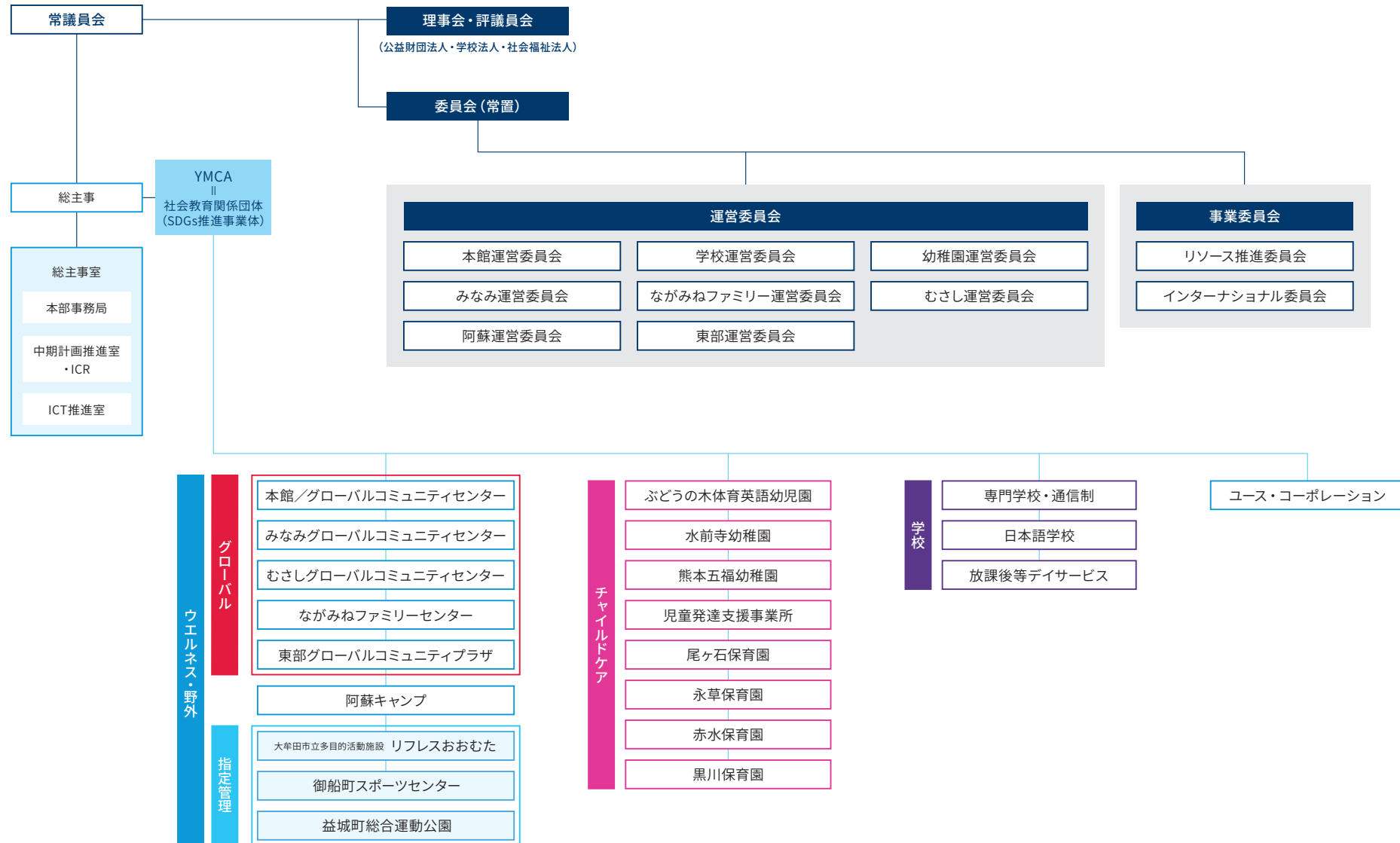
学校法人

部門\拠点	本館	水前寺幼稚園	熊本五福幼稚園	合計
幼稚園	—	85	70	155
幼稚園 収益プログラム	—	44	3	47
専門学校(全日制)	242	—	—	242
日本語学校	136	—	—	136
専門学校(通信制)	126	—	—	126
学研教室	14	—	—	14
児童発達支援・放課後等デイサービス	21	—	11	32
合計	539	129	84	752

社会福祉法人

部門\拠点	尾ヶ石保育園	赤水保育園	永草保育園	黒川保育園	合計
保育園	29	62	35	79	205
合計	29	62	35	79	205

2024年度組織



熊本YMCA役員・委員報告

Board and Committee Members

熊本YMCA常議員

2024年3月時点



麻生 尚哉



伊藤 七海



岩永 福子



上村 文美



上村 眞智子



小川 祐一郎



佐藤 通彦



下田 大雅



田中 俊夫



田上 正



長澤 牧人



西 章男



藤田 香織



北條 将人



本田 節子



本堀 秀一



前田 香代子



松田 誠一



眞西 優治



三上 充



森嶋 道



森田 哲史



守田 富男



両角 彰則



吉岡 久美



吉松 裕蔵



吉村 千恵



吉本 貞一郎



光永 尚生

熊本YMCA役員・委員報告

Board and Committee Members

◎委員長 ○副委員長 ◇担当職員

2024年3月時点

本館運営委員会 ◎西 章男 ○生駒 春美 岡田 茂美 小山 徹 金澤 知徳 木山 彫子
中尾 桂子 林田 博文 福田 稔 北條 将人 村田紀美子 和田 修一
(守田 富男) ◇熊本四季子

みなみ運営委員会 ◎麻生 尚哉 ○岩永 福子 ○森 博之 岩瀬 英次 岩本 守弘 内村 忠生
後藤 慶次 杉野 茂人 時任幸四郎 中村 邦雄 中村 陽志 藤元 俊輔
村上 博 米倉 容子 ◇丸目 陽子

ながみね運営委員会 ◎吉松 裕藏 ○田上 裕章 ○横田 博 石橋 綾 小川祐一郎 柏原 芳則
門永 充弘 菅 正康 竹本 雄一 馬場 淑之 平山 俊生 本堀 秀一
◇木村 成寿

むさし運営委員会 ◎両角 彰則 入佐 孝三 桑原純一郎 最相 博子 田北康一郎 田上 正
斐 東烈 山部 裕輝 来海 恵子 ◇辻 健太郎

阿蘇運営委員会 ◎吉村 千恵 ○篠崎 泰子 上村 文美 内村 優 梅井 俊夫 五嶋 義行
竹原 憲朗 藤本猪智郎 藤本 義隆 松岡 省吾 松田 誠一 武藤 興紀
◇岡山富士男 ◇堤 雄一郎

幼稚園運営委員会 ◎本田 節子 ○岩本 悟 伊藤 七海 岩本 芳久 上野美恵子 白木 尚登
長澤 牧人 東 菜保子 水元 裕二 森田 哲史 山下 和美 三上 充
◇福山 裕敏

学校運営委員会 ◎吉岡 久美 ○上村眞智子 荒木由起子 有吉 亮 岩切 和子 亀浦 正行
俵 哲 ◇中村賢次郎 ◇加藤 泰文

東部運営委員会 ◎三上 充 下田 大雅 西田 晶子 眞西 優治 ◇伊藤眞太郎

リソース推進委員会 ◎佐藤 通彦 秋根 年子 今村 秀夫 大崎 隆義 田中 俊夫 藤田 香織
森嶋 道 山田 芳之 ◇大塚 永幸 ◇時本 紀子

インターナショナル委員会 ◎前田香代子 木下慎太郎 坂本 美穂 立野 泰博 藤井 資子 棟方 信彦
(吉本貞一郎) ◇尾道 一幸

公益財団法人 熊本YMCA

理事長 光永 尚生
理事 大久保和生 大塚 永幸 田上 正 西 章男
守田 富男 吉本貞一郎
監事 田中 俊夫 藤田 香織
評議員 麻生 尚哉 岩永 福子 上村眞智子 長澤 牧人 本田 節子
本堀 秀一 松田 誠一 三上 充 森嶋 道 両角 彰則

学校法人 熊本YMCA学園

理事長 光永 尚生
理事 福山 裕敏 北條 将人 前田香代子 吉村 千恵 吉本貞一郎
監事 吉岡 久美 吉松 裕藏
評議員 伊藤 七海 上村 文美 牛嶋加佐喜 加藤 泰文 佐藤 通彦
中村賢次郎 北條 将人 前田香代子 光永 尚生 宮本 昌宣
吉村 千恵 吉本貞一郎

社会福祉法人 熊本YMCA福祉会

理事長 光永 尚生
理事 岡山富士男 椎葉 朋子 高橋 壘
藤崎 三郎 二子石真弓 宮本 誠一
監事 桑本 ゆき 藤本猪智郎
評議員 五嶋 義行 佐藤かおり 西本 貴志 畑本 芳輝
松村由紀子 森 あい 山口 貴生 脇 澄夫

